

半糯水稻品種「秋音色」の外観品質と食味関連形質の作期間の安定性

半糯水稻品種「秋音色」は、5月中旬、6月中旬及び7月中旬移植で、外観の品質が安定して良好であり、各移植期で「ヒノヒカリ」より優る。アミロ - ス含有率は10%前後で、登熟気温の変化による変動が極めて小さく、「食味の総合評価」が高位に安定する。

農業研究センター 農産園芸研究所 作物研究室 (担当者: 松野 博)

研究のねらい

熊本県では、水稻半糯品種「秋音色」を育成し、平成15年に認定品種に採用し、普及拡大に努めている。「秋音色」の作期移動試験(5月中旬、6月中旬及び7月中旬移植)を「ヒノヒカリ」を比較品種として実施し、その生育・収量・外観の品質及び食味関連形質の特性を解明する。

研究の成果

1. 「秋音色」の収量は、6月中旬移植区 > 7月中旬移植区 > 5月中旬移植区の順に高く、「ヒノヒカリ」と同じ傾向を示す(表1)。
2. 外観の品質は、「ヒノヒカリ」では6月中旬移植区で低下するが、「秋音色」は移植時期にかかわらず、安定して良い(表1)。
3. 「ヒノヒカリ」では登熟気温(出穂後30日間の平均気温)が高くなる程、アミロ - ス含有率は低くなるが(図1 $r^2 = -0.697^*$)、「秋音色」では登熟気温(出穂後30日間の平均気温)とアミロ - ス含有率の間に相関は認められず(図1 $r^2 = -0.175$)、アミロ - ス含有率は10%前後で安定している。
4. 「秋音色」の食味は、「ヒノヒカリ」と比較して、移植時期にかかわらず、粘りが強く、総合評価も高い(表2)。

普及上の留意点

1. 「秋音色」のブレンドの参考として活用できる。

[具体的データ]

表1 生育・収量・収量構成及び品質(H12~H14年の平均)

試験区	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	穂数 (本/m ²)	穂長 (cm)	穂長 (cm)	倒伏 程度	収量 (kg/a)	対標比 (%)	粒 数		登熟 (%)	千粒重 (g)	検査 等級
									(/穂)	(*100/m ²)			
5月中 ヒノヒカリ	8.06	9.14	363	88	20.2	0.0	535	86	89.7	325	75.2	21.6	3.9
旬移植 秋音色	8.03	9.09	386	80	20.1	0.0	520	84	89.9	345	75.3	21.2	2.6
6月中 ヒノヒカリ	8.21	10.08	406	91	19.3	0.0	621	100	90.5	369	77.6	22.2	4.5
旬移植 秋音色	8.20	10.02	367	83	19.5	0.0	578	93	86.5	317	81.3	21.6	2.7
7月中 ヒノヒカリ	9.02	10.21	428	77	19.3	1.0	596	96	83.0	354	75.1	22.3	3.7
旬移植 秋音色	9.02	10.18	393	71	19.6	0.2	548	88	71.5	281	80.6	21.6	2.5

注1) 収量の対標比は6月中旬移植の「ヒノヒカリ」を100にした比率を示す、注2) 倒伏程度は 0(無)~5(甚)に数値化した
 注3) 登熟は 1.8mm以上玄米数/総粒数(%)である
 注4) 検査等級は1(1上)~9(3下)に数値化した

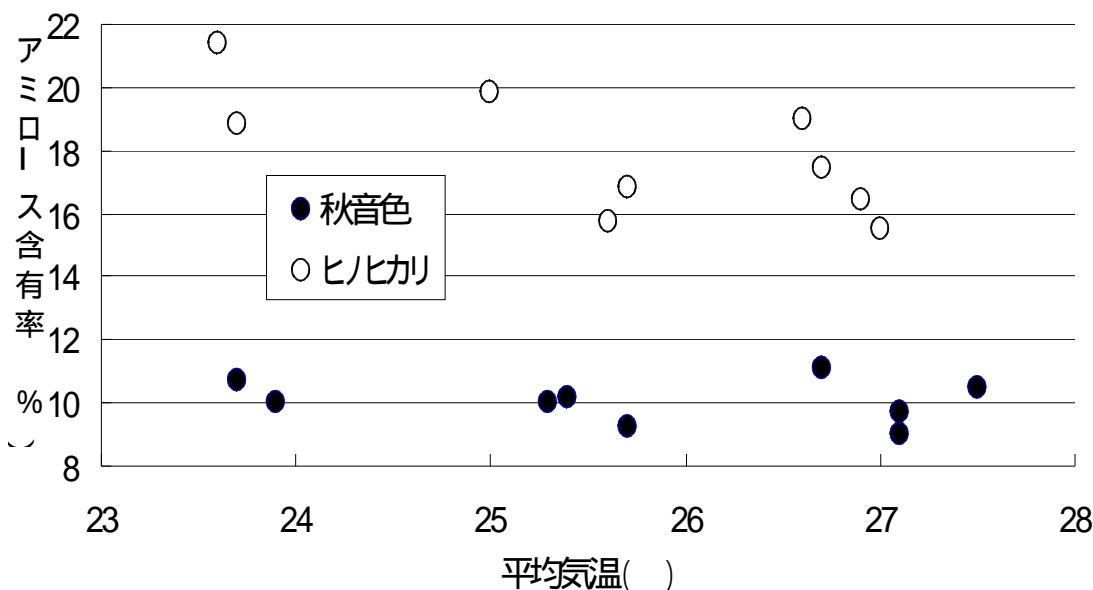


図1 アミロース含有率と登熟気温(出穂後30日間の平均気温)の関係

表2 食味特性(H12~H14年の平均)

試験区	官 能 評 価(総合)					官 能 評 価(粘り)				
	H12	H12	H13	H14	3力年平均	H12	H12	H13	H14	3力年平均
5月中 ヒノヒカリ	-0.19		-0.15	-0.21	-0.18	-0.06		0.29	-0.08	0.05
旬移植 秋音色	0.11		0.11	0.47	** 0.23	0.78	**	0.39	0.58	* 0.58
6月中 ヒノヒカリ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
旬移植 秋音色	0.33	* 0.50	* 0.71	* 0.45	** 0.50	0.89	** 0.66	* 1.13	** 0.61	** 0.82
7月中 ヒノヒカリ		-0.25	-0.04	0.03	-0.09		0.09	0.02	0.03	0.05
旬移植 秋音色		0.03	0.36	0.50	** 0.30		0.19	0.75	* 0.76	** 0.57

注) **は0.01水準 *は0.05水準で基準と異なることを示す